

村上市総合計画審議会 会議録

会議名	第3回 村上市総合計画審議会
年月日	令和5年10月31日(火) 14:00~15:30
会場	村上市役所 4階 大会議室
出席者	<p>【委員】 飯塚委員、岩佐委員、佐々木委員、宍戸委員、仲委員、長島委員、畠山委員、八藤後委員</p> <p>【村上市】 須賀政策監 企画戦略課：大滝課長、山田(美)参事、忠課長補佐、本間副参事、中山主査、渡辺主査、山田(浩)主査</p>
議事内容	
[進行] 事務局	1 開会 〈あいさつ〉
会長	2 挨拶 〈あいさつ〉
事務局	3 報告 (1) 令和5年度第2回村上市総合計画審議会での意見に対する市の考え方(資料1) (事務局が資料を説明)
委員	この審議会の中で、繰り返し申し上げたことは、市では様々な取組が行われているが、各部署で分散して行われており、力の集中が十分ではないということと、優先順位をつけて、今後の市の方向性が良い方に向かって頑張っていって欲しいということである。会長からも、行政はどうしても縦割りになりがちなので、そこに横串を入れていくことはとても大事であると繰り返しお言葉があったところである。(2)の10、市の考え方で「縦の枠を超えて、担当課同士で声を掛け合いながら情報を共有し連携した取組を増やしていくことで、事業がより充実したものになると考える」と示されているが、気を付けるというだけでは、掛け声だけに終わってしまうことが多い。今後横串をしっかり入れていくためには、制度として、年に1回は協議の場を設け、取り組んでいくという方向であれば、より望ましい。
事務局	今年度の審議会を通して、計画は市民の皆さんにとっての分かりやすさ、重点的にここを取り組むという部分での見せ方や取り組み方、また横串で取り組んでいくということの重要性を感じてきた。当課は色々な課の調整をする部署であり、一つのことを課題として解決していく中でも、どうするのが一番いいか、色々な課が集まって話し合う場を設けている。今後もそういった部分を大事にしながらか進めていきたい。
会長	横串を通すことが、正に企画部門の業務と考えるので、横串として取り組んだことを記録してはどうか。何月何日何課と何課を繋げた、一緒に会議を持ったなど小さなものまで記録をとるとよい。それが積み重ねることによって、横串作業の取組が、企画戦略課から他の課にも波及し、徐々に市役所が変わっていく。

	<p>4 議事</p> <p>(1) 第3次村上市総合計画の変更(案)の修正(資料2) (事務局が資料を説明)</p>
委員	指標の基準値と目標値の年度はどのようになっているか。
事務局	令和2年度が基準値になる。修正後として令和2年度時点で新規就業者が108人となり、目標値の令和8年度は187人まで増やしたいという内容の修正である。
委員	5年間ぐらいで80人弱の増加だが、目標達成の見込みはあるのか。
事務局	新規就農者については、毎年波はあるが5年間のスパンの中で、毎年15人位増えてほしいとの見込みを持っている。
委員	感覚として15人位の新規就農者というのは、村上市が面積が広いことも理由だろうが、すごい数字だなという印象を持った。
会長	私も、今の時世で毎年15人、新しく農業をやる人がいるというのは多いという印象を受けた。
事務局	新規就農者というと、ゼロから農業を始めるようなイメージを持たれるかと思うが、15人という数字は、農地法人に就職する方も含まれており多い数字となっている。
	<p>(2) 第2期村上市総合戦略(改訂案)(資料3) (事務局が資料を説明)</p>
委員	用語集だが、デジタル分野は略語が多いので、カバーされているか気になったが、説明が追加されておりよかった。文言については、10ページで今回新しく加えた部分に「技術改新」という言葉があるが、「技術革新」の方が一般に流通している言葉なので、その方がよろしいかと思う。また「ゼロカーボン」という言葉もちよっと気になったが、「ゼロカーボン」「カーボンニュートラル」と両方使われており、調べたらほぼ意味も同じであり、村上市で3月に「ゼロカーボンビジョン」を策定されていることから、そのままでよろしいかと思う。また「村上市ゼロカーボンビジョン」を策定したことも入れてもいいと思う。
事務局	「ゼロカーボンシティ」を表明したことについては、18ページに記載している。委員が今おっしゃった「村上市ゼロカーボンビジョン」は今年の3月に策定したものである。その前段として、令和3年6月に大元となる「ゼロカーボンシティ」を表明しているので、そのくだりを入れているところである。
委員	それで経緯がわかった。このままでよい。
委員	最近政治家の言葉が非常に曖昧になってきていると思う。「丁寧な説明」とはどういう説明なのか、「スピード感」というのはどういうものを言っているのか。政治家が国民や市民を煙に巻くときに曖昧な言葉を使う。最近それが行政の中に入っているということを感じる。行政の文書に使う言葉は、誰にでも分かる言葉を使って欲しいと思う。確かに色々な用語について用語集に出ているが、それでも

	<p>やはり「デジタル」と何を指すのか、「スピード感」とは一体どういうことを言っているのか、「ステークホルダー」とは本当に企業の利害関係者のことなのか、読んだ人が村上市はこういうことやろうとしているということを、分かりやすさということをもっともっと気をつけて欲しい。私は教員であり、自分の仕事とも関係しているが、学生達に、間違いのないきちんと理解できる言葉を使うということは、あり方としては行政と市民の関係も一緒だと思う。</p>
会長	<p>計画は恰好をつけることが目的ではなく、市民にわかってもらってこそ意味があると思うので、ご指摘はおっしゃるとおりである。</p>
事務局	<p>職員も新しい課に異動すると、当初は話の内容や語句が理解できず慣れるのに苦労する。経験年数1年目の状態が市民の方と同じ状態という語弊があるかもしれないが、2年目3年目になった時にも、今のご指摘のように、これが読み下した時に、すんなり市民の方がわかってくださる内容なのかという視点を忘れないようにしたい。</p>
会長	<p>19ページの「市内温室効果ガス排出量」だが、どのように計算するのか。</p>
事務局	<p>細かい計算方法までは確認していないのが現状である。</p>
会長	<p>細かい算式や方程式は不要だが、基本的な考え方は企画戦略課として把握していた方がいい。33ページの「マイナンバーカードの交付率」で現状69%、目標85%とあるが、なぜ100%ではないのか。</p>
事務局	<p>マイナンバーカードはパスポートと同じで、原則受け取りの際は、本人が市役所に来庁することが前提となっている。現在はそれが大分緩和されて、例えば介護施設に入所の方や乳幼児の方は、要件は厳しくなるものの、本人が来庁しなくとも受け取れるようになっている。しかし、例えば、自分の意思で自宅に引きこもっておられる方、市役所には身体的に行ける状態だが行きたくないという方がいる。また、マイナンバーカードを持ちたくない、持たなくていいという方もいる。他には、今回マイナポイント付与によりかなり申請率が伸びたが、次回の更新が未成年は5年後、大人は10年後となった時に、もう1回マイナンバーカードを新規取得、更新するがどうかも含め、100%にはならないと思われる。</p>
会長	<p>目標値の85%の積算根拠は何か。</p>
事務局	<p>目標値の設定について現状をみると、90%となると難しいのではないかとこのところで、手堅い数字ということで85%という設定になった。</p>
会長	<p>特に「マイナンバーカードの交付率」というのは、どの市町村も関係する比較の対象となる数字である。そうすると、村上市の目標値が85%、なぜ100%でないのかと聞かれる場合がある。また85%の積算根拠を聞かれる機会が多くなる。よって本来なら目標値はそれぞれ積算根拠が必要であるが、少なくともこういう目立つ数値、全国的に横串で比較されるであろう数値の積算根拠はしっかり押さえて、即答できるようにしてほしい。これは、例えば報道機関或いは議会からも聞かれる可能性があるので、次回までに数値の根拠は押さえておいてほしい。</p>
委員	<p>24ページの「施策の方向性」パートナーシップについての部分だが、「女性の子育て」と読み取れるが、徐々に女性が働きやすさだけでなく、男性が育休を取得</p>

	<p>しようとなっているので、男性も女性も子育てを担っていくというような表現になるといい。</p>
会長	<p>事務局からは新潟大学の溝口教授からご指導を受けたとの報告があったが、その内容は計画に反映されるか。</p>
事務局	<p>委員のご意見のとおりであり、前回の審議会においても、女性が仕事も家事育児もやるという時代ではなくて、男性も女性も働きやすく、また子育てや家事を応分に助け合っているような働き方がいいという話が出たところなので、こちらは表現を修正したいと思う。</p>
委員	<p>14ページの「農地集積率」の意味を教えてください。また、先ほどの表現についてのご意見もあったが、集積や利益など、大事な文言は残しつつも、読みながら理解できるような表現にしてほしい。</p>
事務局	<p>農業者には、若い方から高齢者まで幅広くいらっしゃるが、そのエリアごとに「担い手」と位置付けされる農家があり、その方々が経営している面積が何%かということである。その担い手に農地を集積することで、経営も大きくなって安定し、経営の面からもしっかり農家として成り立っていくという流れである。</p>
委員	<p>そうすると「担い手」の意味は「農家を経営している方」ということか。</p>
事務局	<p>個人も法人も含め、地域の農業の担い手という意味であり、個々の世帯の担い手という意味ではない。その地域の農業を一手ではないが、引き受けていただく。農業法人や個人もあるが、そういった方に将来的にはこの地の農業を委ねていくということで、経費節減の利点もあることから、大規模化により効率よく集積をしていく方向になっている。そのために、離農した場合の手当を国が支出するなどの促進策も打っている。大規模農家がいいのかという議論は別にあるが、そのような方向で進んでいるところである。</p>
会長	<p>この場合は「分子が何、分母は何」という説明があると分かりやすい。またキーワードは「担い手とは何か」ということだと思う。そうすると農家というのは、担い手と担い手でないものをふたつに分けて、農地の経営を移していくというのが主流の政策となる。そういったものを「分母・分子」で説明すると、分かりやすくなると思う。</p>
委員	<p>この「農地集積率」は、76.7%という数字が目標値で出ているが、100%からこの数字を引いたら、例えば離農や休耕地の数値となるのか。</p>
事務局	<p>全てが耕作放棄地ではなく、例えば高齢化により、この先何年続けられるかわからないような農家が経営している部分もあるので、全てが耕作放棄地ということではない。耕作放棄地に加え、小規模農家、兼業農家又は生きがい対策で農業を行う高齢者の方もいるので、100引く76.7の数字の中にはそのような方も含まれている。</p>
委員	<p>19ページの「市内温室効果ガス排出量」で指摘があった算出根拠を押さえてほしいという意味がもう一つある。それは行政として施策を実施する中で、これぐらい減らせばこの目標を達成できるという目途を持っておく、あるいは見通しを持っておくことである。これにより施策の立て方が今後変わってくるはずなの</p>

事務局	<p>で、算出根拠を押さえておくことは、とても大事である。</p> <p>算出根拠については、前回の審議会でも皆様から色々ご意見をいただいたところである。ご意見のとおり、分母と分子、算出根拠や出典元等のバックデータを押さえて、すぐ答えられるよう準備をしたい。</p> <p>(3) 第3次村上市総合計画等の進捗管理の中間報告文(案)(資料4) (事務局が資料を説明)</p>
委員	<p>2ページの基本目標3の最後の段落であるが、「更に男女双方の長時間労働解消により」という表現は、長時間労働という男性に偏っており、女性は短時間勤務の方に偏っているのではないかと思う。例えば「特に男性の長時間労働等の解消」などの方がより実態に合っているのではないか。また「家庭での家事育児の分担が平準化」という表現で、「平準化」というのは全く平等であるという意味合いだと思う。家庭によってこの家事分担の度合いは話し合いによるものなので、例えば、「女性に家事育児が偏らず、男性も女性も育児を担うことで」というような表現にすると、より実態に沿った表現になると思う。また3ページの6、「男女共同参画の推進」であるが、「性差」というと生まれながら性差と社会的文化的な性差の二つがある。そうすると、文化的性差を認めてしまっていることが含まれると思うので、ここは「性別にとらわれない」などの表現がいいと思う。</p>
事務局	<p>「長時間労働の解消」の表現、また「平準化」の表現は確かに委員のご指摘のとおり、その家庭での家事育児の分担は、夫婦双方が納得できるバランスがあると思うので、確かに足して2で割るようなことではないと思う。「性差」という言葉も、「性別」とした方が、ふさわしい表現であるので見直したい。</p>
事務局	<p>今のところで提案させていただきたいが、2ページ目の「更に男女双方の」の部分で、「男女」は入れなくてもいいかと思うが、いかがか。性別にこだわる必要はなく、基本的には、まずはその長時間労働を解消するという部分なので、その「男女双方」という言葉を削除したらどうか。「家庭での家事育児の分担が平準化される」の「平準化」のくだりも、委員のご意見のとおり、例えば「性別により家事育児が偏ることなく」などの表現に変更したいがいかがか。</p>
委員	<p>女性も長時間労働の方もいらっしゃると思うので、表現を変えた方がよりいろんな対応ができていけるなという受けとめができると思う。</p>
委員	<p>全体的に私達の議論が上手くまとめられていて、良い報告になっていると感じるが、3ページ6③で曖昧な表現が多く見られる。「市民の目線」ここは「立場」の方がよいのではないか。「ターゲットが理想とするライフスタイルを想定し、」は不要と思う。「よりリアリティのある」、この表現は行政職としては使わない方がいいと思うが、「より具体的」にすると固い表現になってしまうので「具体的に魅力ある」などどうか。あまりカタカナ言葉によらない表現を心がけてほしい。「デジタル」という言葉も曖昧な使い方に感じる。「ターゲットを絞ったアプローチにより」の表現も変えた方がよいと思う。「より分かりやすい言葉を、心がけてください」と報告文で謳っているので報告文自体も分かりやすくしたい。</p>
事務局	<p>確かにちょっとカタカナが多いので、もっと平易で分かりやすく修正したい。</p>
会長	<p>「ターゲットが理想とするライフスタイルを想定し、」は削除、「よりリアリテ</p>

委員	<p>「イのある」は「具体的で魅力ある」に変更することでよいと思う。「ターゲットを絞ったアプローチ」の部分は「対象を明確にした働きかけ」へ変更することを一つの案として提案する。</p> <p>以前の審議会でもお話したが、この総合戦略改訂案に用語集があるが、読む人が今この言葉がわからないときは、この後ろの用語集をいちいち開いて、意味を理解して「次また読み続けましょう」というのは、できる人と難しい人がいると思う。誰が見ても分かりやすい資料というが、一番大事なところだと、自分のこととしても感じる。審議については、委員の皆さんの話についていけないと思うことが、たまにあるが、もう少しフランクに考える部分は考えてよいとなれば、市民目線としては一番ありがたいと感じる。この中間報告文は市長に提案するものなので、まだ少し難しい言葉であるという部分もあっても、致し方ないとは思ふ。一方、広報のような市民が目にする文章は、目に留めてほしいならば分かりやすい文にしてほしいというのが、市民の直な気持ちである。最近よく入ってくる熊の情報も、どこで熊が出たかも把握できないほど大量の情報があるので、情報発信する側も大変だろうと思う。今パッと見て、その文章が何のことを書かれているのか、何を伝えたいかというのが、パッと一目で分かれば「これは私にとって必要な欲しい情報」と思っただけで見る。しかし、難解だったり、何を伝えたいのかがどこまで読んでも分からない文章だと、市民としては時間を割いてまで最後まで読んだのに、結局自分に必要ない情報であったときには「やっぱり市役所は堅い言葉で言うんだね」と見られてしまう。格好つける必要もなく、分かりやすさが一番大事だと思うので、情報を出される時にちょっと気にかけていただきたい。</p>
事務局	<p>当課は、広報を作成している部署でもあり、貴重なご意見として受け止める。広報は、おおよそ小学5年生が読んで理解できるような文章表現で作るように心がけている。また今ご指摘の、全文を読んで初めて何が書いてあるのか分かるというのではなく、見出しである程度自分が欲しい情報かどうかを、分かるような見出しのつけ方に徹するよう、心がけていきたい。</p>
副会長	<p>市役所も金融機関も同じだと思うが、国・県の文書はもっと分かりにくい文書を送ってくるので、日々それを読み解きながら仕事をしている側からすると、市の努力は感じる。しかし先ほどの小学校5年生やお年寄りの目線からすると、まだまだ分かりにくい表現であろうと思う。巻末の用語説明も我々もよく使うが、これを文中に入れると、本当に分かりにくい文章になってしまう。そこに※印を付けてこのページの下に置き換えると文字が小さくなり見づらくなってしまので、難しいところである。ただし、これだけ苦労して作ったものが、役に立たなければ何の意味もなくなるので、そこは皆さんがおっしゃるように分かりやすくする対策を考えていくしかないと思っている。</p>
委員	<p>分かりやすさでいうと、自分の専門的なところは分かるが、デジタルなど苦手な分野で横文字がいっぱい入っていると、それを見ただけで「ちょっとこれは読まないでおこう」と思ってしまうことがあるので、とっかかりが大事だと思う。小学校5年生が対象という年齢設定は、本当にいいことだと思う。今の小学生は既に携帯をもっているかもしれないので、子どもたちでも分かる内容の地域のLINEがあればよいのではないかと。例えば子どもたちが、パッと見て危険を察知できる内容であれば、子ども自らが危険を回避でき、有効だと思う。</p>
会長	<p>では、文案修正があったが、総合戦略改訂案も併せて委員の皆様からのご意見</p>

事務局	<p>を踏まえてもう一度練り直した上で、これでよろしいかということ事務局よりもう一度委員の皆様にご連絡してください。</p> <p>変更箇所の提案だが、総合戦略改訂案の24ページ、先ほど委員からご質問のあった点であるが「施策の方向性、エ」の部分で、「ハッピーパートナー企業への登録推進や、ワーク・ライフ・バランスを後押しする企業を応援することで、全ての方が働きやすい環境づくりと、誰もが住みやすい地域づくりを進めます。」という表現で多少修正があるかもしれないが、そのような表現でいかがか。</p>
会長	<p>「ワーク・ライフ・バランス」は横文字だが、今や馴染みやすい言葉になっているのかもしれない。事務局からの提案を踏まえ、またもう一度、委員の皆様におかれましてはご確認いただきたい。</p>
	<p>(4) 第2期村上市総合戦略改訂の答申文(案)(資料5)</p>
委員	<p>「デジタル」とは一体何を指すのかとよく思うが「デジタルの力」という表現でよいのか。「ICT」という言い方もあり、今後もう少し納得のいく表現はないものかと思う。</p>
委員	<p>いわゆる「IT」「ICT」「AI」などあるが、それぞれの言葉を使うとそれぞれに範囲を狭めてしまうため、ぼやっとしているが、一応それぞれを全部含む言葉として「デジタル」という言葉を使っていると理解している。</p>
委員	<p>今の段階では「デジタル」として、今後もっと細分化された段階でより具体的になっていけばよいと思う。</p>
	<p>5 その他</p> <p>(1) 答申及び中間報告日 (事務局が説明)</p> <p>6 閉会 (あいさつ)</p> <p style="text-align: right;">以上</p>